

当院の NST 介入患者における血清 Alb 値と入院中死亡率との関連

特定医療法人同心会 遠山病院 臨床検査技師<sup>1)</sup>、栄養課<sup>2)</sup>、外科<sup>3)</sup>、内科<sup>4)</sup>

糸毛麻美<sup>1)</sup>、飯田恵利<sup>2)</sup>、西脇亮<sup>3)</sup>、井本一郎<sup>4)</sup>

**【目的】**入院後 NST 介入患者で死亡した患者（以下死亡退院群）と、無事退院できた患者（以下非死亡群）を、Alb を含めた検査指標について検討した。

**【対象及び方法】**対象は平成 25 年 4 月から 29 年 3 月にかけて NST 介入患者 182 名である（男 83 名、女 99 名、平均年齢 80.2±12.0 歳）。検討項目は、入院時、NST 介入時、NST 終了時の 3 ポイントで、Alb、TC、ChE、TLC、CRP の推移について、入院中死亡退院群 21 例と非死亡群 161 例で比較検討を行った。

**【結果】**Alb は死亡退院群では各ポイントで 2.59、2.01、1.72g/dl と、非死亡群の 2.93、2.30、2.44g/dl に比べて有意に低値であった（ $P<0.05$ 、 $P<0.02$ 、 $P<0.001$ ）。TLC は各ポイントの両群間で有意差を認めなかったが、NST 終了時の TC、ChE、CRP は両群間で有意差を認めた（ $P<0.1$ 、 $P<0.01$ 、 $P<0.001$ ）。栄養ルート（主に経口、主に経管、輸液単独）に関しては、死亡退院群では輸液単独例の割合が多く、非死亡群では経口や経管での栄養投与法が多かった。

**【結論及び考察】**死亡退院群では入院時点でも栄養レベルが低く、かつ改善せずに低栄養進行例が多かった。当院での NST 対象患者抽出の指標として Alb が有用であり、死亡退院を予防するための経過管理として Alb2.5g/dl 以上が目標とされた。